中国学園大学　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名		ページ数
保育・幼児教育学特論	伊藤　智里	・・・・・・・	1
学校教育学特論	佐々木　弘記／岸　誠一	・・・・・・・	3
教育方法学特論	佐々木　弘記／住野　好久	・・・・・・・	5
子どもと音楽演習	川崎　泰子	・・・・・・・	7
子どもと英語演習	西田　寛子	・・・・・・・	9
子どもと理科演習	佐々木　弘記	・・・・・・・	11
子どもと算数演習	平井　安久	・・・・・・・	13
子どもと国語演習	太田　憲孝	・・・・・・・	15
子どもと表現演習	牛島　光太郎	・・・・・・・	17
子どもと健康演習	水落　洋志	・・・・・・・	19
子どもと環境演習	齊藤　佳子	・・・・・・・	21
子どもと人間関係演習	廣畑　まゆ美	・・・・・・・	23
教育心理学特論	國田　祥子	・・・・・・・	25
子ども社会学特論	中田　周作	・・・・・・・	27
相談・援助特論	中　典子	・・・・・・・	29
発達障害児支援特論	原田　新	・・・・・・・	31
子どもの認知と学習特論	國田　祥子	・・・・・・・	33
子どもとメディア特論	岸　誠一	・・・・・・・	35
地域教育社会学特論	中田　周作	・・・・・・・	37
地域教育福祉特論	中　典子	・・・・・・・	39
子どもと放課後特論	住野　好久	・・・・・・・	41
子ども学特別研究	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／伊藤　智里／西田　寛子	・・・・・・・	43

科目名	保育・幼児教育学特論			授業番号	MA301	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講座では，子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに，諸外国との比較をしながら，幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに，子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対しての理解力を高め，保育の実力を深めていく。								
到達目標	子どもの視点に立ちながら，より高度な活動の理解と解釈を可能にするために，保育・幼児教育の法令変遷について理解し，諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。なお，この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育・幼児教育の基本 現在の保育・幼児教育の基本的事項について確認する	
第2回	日本の保育・幼児教育の制度１ 日本の保育（福祉系）の制度について概観し、課題を検討する	
第3回	日本の保育・幼児教育の制度２ 現在の幼児教育（教育系）の制度について概観し、課題を検討する	
第4回	保幼小接続の仕組み 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の接続について、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを理解する	
第5回	幼児教育の歴史的変遷１ 幼児教育について、海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第6回	保育・幼児教育の歴史的変遷２ 保育・養護の側面から海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第7回	保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 保育所・幼稚園・認定こども園の各機関の役割の整理と現状の課題について検討する	
第8回	外国の保育・幼児教育１ フィンランドのネウボラについて概観する	
第9回	外国の保育・幼児教育２ ニュージーランドのティアリキについて概観する	
第10回	外国の保育・幼児教育３ 海外の保育・幼児教育について概観する	
第11回	保育・幼児教育思想１ フレーベル、倉橋惣三が目指した幼児教育について検討する	
第12回	保育・幼児教育思想２ モンテッソリ、シュタイナーが目指した保育について検討する	
第13回	保育・幼児教育思想3 現在に至るまでの教育・保育の思想家について確認する	
第14回	保育者の専門性１ 保育者が持つべき専門性について検討する	
第15回	保育者の専門性２ 今後の保育者に求められる専門性について検討する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。
レポート	50	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。 内容についてのコメントは、授業内または後日フィードバックする。

評価の方法：自由記載	予習や意見発表など講義への取り組みの積極性と，レポートの論理性を基準に評価を行う。
受講の心得	授業内容を理解し課題を行う中で，自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。
授業外学修	１．授業前に発表できる準備を行うこと。 ２．授業後に討論した内容について、まとめること 以上の内容を週当たり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育用語辞典」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
その他	
備考	令和４年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	学校教育学特論			授業番号	MA302	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	第一に，先行研究を概括しながら，学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について議論するとともに，教師の専門的力量の形成について考察する。 第二に，反省的実践家としての教師の専門的力量形成のモデルを取り上げ，省察と熟考による実践的見識の獲得過程に言及する。 第三に，学校教育におけるいくつかの問題場面を想定し，反省的思考の過程について学ぶ。								
到達目標	学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について理解を深めることができる。＜知識・理解＞ 教師の専門的力量の形成について思考し，反省的実践家として教育に係る諸問題に対応できる問題解決能力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞ なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育課程の変遷 明治期に導入された学制に伴う教育課程の始まりから戦後の学習指導要領に至る教育課程の変遷を概括する。	岸誠一
第2回	学習指導の様式 学習指導の対立する二つの様式である「伝達観・助成観」及び「形式陶冶・実質陶冶」の観点から学習指導の在り方について議論する。	岸誠一
第3回	行動主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた行動主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第4回	認知主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた認知主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第5回	構成主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた構成主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第6回	教師の専門的力量 教師の専門的力量形成について行動主義と構成主義の立場から考察する。	岸誠一
第7回	技術的熟達者モデル 教師の専門的力量形成の一角を占める技術的熟達者モデルについてその意義と教師教育への適用について議論する。	岸誠一
第8回	反省的実践家モデル 教師の専門的力量形成の一角を占める反省的実践家モデルについてその意義と教師教育への適用について議論する。	岸誠一
第9回	省察と熟考 反省的実践家としての教師の専門的力量の中核をなす「省察と熟考」について実践的な立場から考察する。	岸誠一
第10回	教師の職能成長 教師の職能成長を支える観点から，反省的実践家としての教師の成長についてその原理と方法を議論する。	岸誠一
第11回	専門的力量の形成(1) 教育センターにおける研修講座において，学習評価の専門的力量を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第12回	専門的力量の形成(2) 教育センターにおける長期研修において，各教科における実践的指導力を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第13回	専門的力量の形成(3) 教育センターにおける所員研究において，研究協力者である校長が所属校の教員の専門的力量を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第14回	反省的思考の方法(1) ショーンの反省的実践家モデルに基づいて，「行為過程における省察」「行為についての省察」を促すことで実践的指導力を形成する方法について検討する。	佐々木弘記
第15回	反省的思考の方法(2) ショーンの反省的実践家モデルに基づいて，「熟考と翻案」の反省的思考を促すことで実践的指導力を形成する方法について検討する。	佐々木弘記
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	レポート（50%），授業態度（50%）
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『教育方法学　岩波テキストブック』，佐藤学（著），岩波書店，1996年 『専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える』，ドナルド・ショーン（著），佐藤学・秋田喜代美（訳），ゆみる出版，2001年
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。（岸誠一）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記） 公立小学校長(8年)，小学校教諭(13年)，県生涯学習センター(3年)，県情報教育センター(6年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（岸誠一）

科目名	教育方法学特論			授業番号	MB301	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び，それを実践するための力量を身につける。								
到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育方法学研究の全体像 教育方法学研究の歴史的変遷から現代的な課題について概括する。	（佐々木）
第2回	教育方法学研究の歴史(1)−コメニウス 教育方法学の歴史をたどり，実質陶冶の始祖としてのコメニウスの業績について検討する。	（佐々木）
第3回	教育方法学研究の歴史(2)−ヘルバルト 教育方法学の歴史をたどり，現在の学習指導につながるヘルバルトの５段階教授法について検討する。	（佐々木）
第4回	教育方法学研究の歴史(3)−デューイ 教育方法学の歴史をたどり，子ども中心の新教育への変革を唱えたデューイの教育方法について検討する。	（佐々木）
第5回	教育方法学研究の歴史(4)−戦後新教育 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，民主主義の発展を企図した新教育運動について検討する。	（佐々木）
第6回	教育方法学研究の歴史(5)−教育の現代化 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，スプートニクショックを起点とした教育の現代化について検討する。	（住野）
第7回	教育方法学研究の歴史(6)−集団学習法 学習者を小グループに分け討論などを用いて行う教育方法であるパズ学習やジグソー学習などについて検討する。	（住野）
第8回	教育方法学研究の歴史(7)−学びの共同体論 学習者主体の協働・共同的な学習を実現するための学びの共同体論について議論する。	（住野）
第9回	教育方法学研究の歴史(8)−アクティブ・ラーニング 平成２９年告示の学習指導要領において授業改善の視点として取り入れられたアクティブ・ラーニングの理念と方法について検討する。	（住野）
第10回	教育方法学研究の実践課題(1)−学力・資質能力論 平成２９年告示の学習指導要領において示された学校教育において育成する資質・能力の３つの柱について学力論の観点から検討する。	（住野）
第11回	教育方法学研究の実践課題(2)−教授と学習 教育の根幹をなす教授と学習についてその原理や方法について行動主義や認知主義，構成主義の学習論の立場から検討する。	（住野）
第12回	教育方法学研究の実践課題(3)−指導と評価の一体化 学習指導の表裏一体となる学習評価について，形成的評価や総括的評価などの評価論を用いながら指導と評価の一体化について議論する。	（住野）
第13回	教育方法学研究の実践課題(4)−授業づくりと学級づくり 学級経営の視点をもった各教科等の授業づくりの意義と方法について検討する。	（住野）
第14回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第１回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討する。	（住野）
第15回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第２回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討し，実践構想を発表する。	（住野）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	講義内容を深く理解したうえで，教育方法学の実践化のための知見を示すこと。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。 授業で配付するプリント・資料などを整理し，講義ノートを詳細にとること。
授業外学修	1　予習：配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習：ノートの内容を確認し，プリント・資料などを整理する。 3　発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(９年)（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記）

科目名	子どもと音楽演習			授業番号	MB302	サブタイトル	小学校音楽１～６年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に，現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して，子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で，実践的な表現方法のあり方を考察し，より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。								
到達目標	子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では，子どもの音楽的成長と発達について理解し，子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また，子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに，子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには，どのような音楽的活動を経験させ，どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて，教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校の音楽科教育の現状と課題 小学校における音楽科教育の意義と内容／音楽科学習指導要領	
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－　１年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校１年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する	
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－　２年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校２年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める	
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－　３年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校３年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ １～３年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－　４年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校４年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－　５年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－　６年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ ３～６年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備	
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する	
第12回	「鑑賞」および「共通教材」１，２，３年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第13回	「鑑賞」および「共通教材」４，５，６年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第14回	共通事項　音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト	
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ １～６年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノリコーダー（課題曲２曲（重唱含む））成果発表 評価について考察する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況により評価する。
レポート	20	レポート課題について，コメントし返却する。
小テスト（実技試験、グループ発表）	50	最終的な理解度定着度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校音楽１～６年

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	小学校音楽１～６年 小学校学習指導要領「音楽」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かしての音楽的指導，音楽実技，またはそれらに必要な音楽的知識や理解を深め，実践的指導力の向上に努める。

科目名	子どもと英語演習			授業番号	MB303	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語教育に関する先行研究ならびに先行実践について検討し，理論に基づく指導の改善について考察する。また，英語教育の課題解決に向けた指導と評価の在り方について探究する。								
到達目標	・英語教育に関する理論と実践について考察し，現状における課題の解決に向けた指導と評価の在り方について探究できる。 ・具体的な実践・評価構想について論究できる。 　なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた(高度な専門性を備えた教育者の育成)に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１回　英語教育の現状について議論する。 第２回　英語教育の課題について議論する。 第３回　課題解決のための理論研究（１）：自己調整学習の理論に基づく指導の改善について論究する。 第４回　課題解決のための理論研究（２）：学校組織開発理論に基づく指導の改善について論究する。 第５回　課題解決のための理論研究（３）：自己調整学習の理論と学校組織開発理論の融合理論に基づく指導の改善について論究する。 第６回　実践研究の方法論（１）：「聞くこと」についての指導と評価について論究する。 第７回　実践研究の方法論（２）：「話すこと（やり取り・発表）」についての指導と評価について論究する。 第８回　実践研究の方法論（３）：「読むこと」についての指導と評価について論究する。 第９回　実践研究の方法論（４）：「書くこと」についての指導と評価について論究する。 第10回　実践研究の方法論（５）：「主体的・対話的で深い学び」の在り方について論究する。 第11回　実践研究の方法論（６）：「ティーム・ティーチング」の在り方について論究する。 第12回　実践研究の方法論（７）：「視聴覚教材・ICT」の効果的な活用について論究する。 第13回　実践研究の方法論（８）：「他教科等との連携」「異校（園）種間連携」の在り方について論究する。 第14回　理論に基づく実践構想の発表（プレゼンテーション）を行う。 第15回　発表の振り返りと改善策の考案・まとめを行う。								
授業計画　備考2	令和５年度改定								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，課題解決に向けた積極的な姿勢等を評価する。
レポート	50	理論に基づ具体的な実践構想について，レポート（紙媒体）ならびにプレゼンテーションで評価する。 レポートについては，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ 授業で配布される資料について予習・復習をすること。 ・ 疑問点や課題について，自ら進んでリサーチし，その解決策について探究すること。 ・ 授業中は積極的に発言すること。
授業外学修	・予習として，配付資料を読み，疑問点を明らかにして受講する。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を授業で配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる高度な実践力を育成する。

科目名	子どもと理科演習			授業番号	MB304	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習指導に用いられる学習理論を指導場面に沿って考察する。更に，いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標や内容に基づき，理科の学習指導に用いられる学習理論について背景となる学問領域と関連させて理解する。また，具体的な授業場面を想定した教材研究の技能を身に付ける。 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校理科の目標・内容 小学校学習指導要領理科に示された理科の目標や内容について理解する。	
第2回	理科で育成する資質・能力 小学校学習指導要領理科に示された三つの資質能力及び問題解決能力の育成内容について理解する。	
第3回	理科の学習理論 理科の学習指導を支える行動主義，認知主義，構成主義の各学習論について理解する。	
第4回	探究学習論 理科の学習指導を支える探究学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第5回	問題解決学習論 理科の学習指導を支える問題解決学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第6回	認知論的学習論 理科の学習指導を支える認知論的習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第7回	構成主義学習論 理科の学習指導を支える構成主義学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第8回	教材研究の仕方 各学年における問題解決力を育成する視点から教材を工夫する方法を修得する。	
第9回	学習指導案における指導と評価 各学年における問題解決力を育成する視点から学習指導案を作成し，指導と評価の在り方について考察する。	
第10回	理科におけるプログラミング教育 学習指導要領に示された第６学年「電気の利用」の単元において，電気を効率的に利用するための方法としてプログラミングの指導の仕方を工夫する。	
第11回	情報機器を活用した授業 コンピュータやインターネットを用いて効果的に理科の学習指導を行う方法を修得する。	
第12回	物理領域にかかわる教材研究 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第13回	化学領域にかかわる教材研究 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第14回	生物領域にかかわる教材研究 小学校理科の「B　生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第15回	地学領域にかかわる教材研究 小学校理科の「B　生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料について予習・復習をして授業に臨むこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	東洋館出版		111

使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省，小学校理科教科書

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年），県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

科目名	子どもと算数演習			授業番号	MB305	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し，算数教育の研究課題について検討することから，算数学習・算数教育のあり方について考察する。								
到達目標	1　算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。 2　算数教育の研究課題を探究することができる。 3　算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	算数学習の内容論的考察（数と計算）	
第2回	算数学習の内容論的考察（図形）	
第3回	算数学習の内容論的考察（測定，変化と関係）	
第4回	算数学習の内容論的考察（データの活用）	
第5回	算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動）	
第6回	算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明）	
第7回	算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動）	
第8回	算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性）	
第9回	算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較）	
第10回	算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究）	
第11回	算数教育の研究課題（問題解決型の授業）	
第12回	算数教育の研究課題（発達段階と学習指導）	
第13回	算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能）	
第14回	算数教育の研究課題（教科書の変遷）	
第15回	算数学習・算数教育のあり方	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況を評価する。
レポート	60	演習の要点を理解し，自分の考えを述べた内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付する資料等について予習･復習し，自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。
授業外学修	1　復習として，授業内容をノートにまとめて整理すること。 2　予習として，配付した資料等を熟読し，自分の疑問や意見をもつこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは特に指定しない．必要な資料を各回用意する．

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要な文献･資料等を各回紹介する．
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと国語演習			授業番号	MB306	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	国語科教育に関する先行文献及び先行実践の研究、小学校国語科教科書に掲載されている教材の特質の理解を通して、国語科教育についての確かな教科観及び指導観等を身に付け、今日的課題に即した授業構想を検討する。								
到達目標	国語科教育に関する先行文献や先行実践を研究したり、教科書に掲載されている教材を分析し教材の特質を捉えたりして，国語科教育に対する確かな学力観及び指導観等を身に付けるとともに，今日的課題に即した授業のあり方を具現化することを目標とする。 この科目は，ディプロマポリシーに掲げた確かな専門性を備えた保育者，教育者，研究者の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	国語科教育の現状と課題 「国語科教育に関する先行文献や先行実践を検討し、今日の国語科教育の現状と課題を明らかにする。」	
第2回	小学校における文学的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける物語の構造や仕掛けを理解する。」	
第3回	小学校における文学的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける文学的表現を理解する。」	
第4回	小学校における文学的文章の指導（３） 「語り手が顕在化している物語を分析し、作者の想を理解する。」	
第5回	小学校における文学的文章指導のあり方 「文学的文章の特質を整理し、指導のあり方を構想する。」	
第6回	小学校における説明的文章の指導（１） 「説明的文章の指導に関する先行文献及び先行実践を検討し、現状と課題を理解する。」	
第7回	小学校における説明的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する文章の構造や仕掛けについて理解する。」	
第8回	小学校における説明的文章の指導（３） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する説明的言語と文学的言語について理解する。」	
第9回	小学校における説明的文章の指導（４） 「説明的文章の特質を整理し、説明的文章の指導のあり方を構想する。」	
第10回	小学校における「書くこと」の指導（１） 「「書くこと」に関する先行文献及び先行実践、現行の学習指導要領を検討し、現状と課題を理解する。	
第11回	小学校における「書くこと」の指導（２） 「教科書に掲載されている教材を分析し、実用的文章指導の実際を理解する。」	
第12回	小学校における「書くこと」の指導（３） 「生活綴り方において実践された作文を分析し、人格形成に資する作文指導を理解する。」	
第13回	小学校における「書くこと」の指導（４） 「「書くこと」に関する指導の傾向を整理し、「書くこと」の指導のあり方を構想する。」	
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（１） 「「主体的・対話的で深い学び」について、先行文献を調べ、その趣旨や課題を理解する。」	
第15回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（２） 「先行実践を調べ、「主体的・対話的で深い学び」の改善点を検討する。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	予習及び討論への参加の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容の理解度をレポート及び発表によって評価する。提出されたレポートは、授業の中で読み合い、学びの深まりを確認する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業及び研究と向き合う姿勢が重要である。
受講の心得	資料の読み合わせ及び討論に積極的に参加し，研究の深まりや楽しさを実感すること。 予習では，授業で用いる資料を深く読み込み，自分の考えをもって授業に臨むこと。
授業外学修	１．授業内容は，ファイルやノートに整理しておくこと。 ２．予習として，授業で用いる文献を熟読しておくこと。 ３．授業での学びをきっかけにして，関係する文献を調べ研究を充実させること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと表現演習			授業番号	MB307	サブタイトル			
教員	牛島　光太郎								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもと表現に関する先行実践を学び，表現に関する指導や環境の在り方について検討する。また,様々な表現ツールを用いながら，その特徴や面白さや課題を確認する。その上で表現の指導に関する自身の問題意識を明らかにし，具体的な指導場面を想定し課題解決に向けた指導や教材の在り方について探究する。								
到達目標	1.子どもの表現に関する基本を踏まえ，育成すべき資質・能力について理解できる。 2.子どもの表現を支える様々な取り組みを研究し，指導の構想に活用することができる。 3.子どもの発達や学びの過程を理解し，素材や環境要素を研究し，自身の問題意識を持ちながら教材化することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	表現とは1 幼児の表現に関する事例研究	
第2回	表現とは2 児童の表現に関する事例研究	
第3回	表現とは3 子どもの表現に関する事例研究（企業の取り組み）	
第4回	表現とは4 子どもの表現に関する事例研究（様々な自治体の取り組み）	
第5回	表現とは5 子どもの表現に関する事例研究（海外の取り組み）	
第6回	表現方法について1 子どもと造形表現	
第7回	表現方法について2 子どもと音楽表現	
第8回	表現方法について3 子どもと身体表現	
第9回	表現方法について4 子どもと自然環境	
第10回	鑑賞について1 幼児と鑑賞活動	
第11回	鑑賞について2 児童と鑑賞活動	
第12回	教材の研究1 教材を活用した活動のねらい,内容について	
第13回	教材の研究2 表現活動の環境について	
第14回	教材の研究3 教材の制作	
第15回	教材の研究4 教材の発表,振り返り	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを具体的に述べていること。レポート・課題はコメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	造形表現については，はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと健康演習			授業番号	MB308	サブタイトル			
教員	水落　洋志								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの身心の発育・発達についての現状と課題について講義する。また，子どもと健康に関わる課題等について文献や学術論文を集め，要約し発表する。								
到達目標	下記の3点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜保育所，幼稚園，認定こども園，小学校，地域社会，家庭などのあらゆる領域における子育て支援，保育，教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して，多様な視点からアプローチし，理論化を図る＞ことに貢献する。 1．乳幼児期の心身の発育・発達を理解し，現状から導き出される課題と照らし合わせ，その課題への対応策を導き出すことができる。 2．乳幼児期の各発達段階に応じた支援・援助について，健康の側面から分析及び適切な解を導き出すことができる。 3．子どもの健康に関する課題について，論理的思考をもち，課題解決することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	第1回 乳幼児期の心身の発育・発達	
第2回	第2回 乳児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響	
第3回	第3回 幼児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響	
第4回	第4回 乳児期の遊び（運動遊びを中心として）	
第5回	第5回 幼児期の遊び（運動遊びを中心として）	
第6回	第6回 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（歩行動作獲得までの発達過程）	
第7回	第7回 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（模倣動作の発達過程）	
第8回	第8回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（運動能力の発達過程）	
第9回	第9回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団の運動遊び）	
第10回	第10回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（子どもの興味・関心から構成する運動遊び）	
第11回	第11回 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（0－1歳児を中心として）	
第12回	第12回 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（2歳児を中心として）	
第13回	第13回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（3歳児を中心として）	
第14回	第14回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（4歳児を中心として）	
第15回	第15回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（5歳児を中心として）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	35	論理的思考や主体的な発話ができる。さらに，自己の興味・関心に基づき探究し，具現化（レポート等）することができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。
レポート	65	乳幼児期の発達の特性を捉え，理論的に発表したり，レポート作成ができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	１．乳幼児の健康に関する知見やその研究データなどを収集し，解決にむけた方法を探る。 ２．乳幼児の身体発達についての先行研究を集約し，研究方法について理解する。
授業外学修	１．乳幼児を対象とした身体に関する学術論文や文献を集め，そのポイントを記載する。 ２．具体的な乳幼児の身体発達を促す遊びや場面について，生活の中でエピソードを収集する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生涯スポーツの心理学	杉原　隆	福村出版	978-4-571-25039-2	2，800円

参考書：自由記載	事前に読んでおくことが望ましい。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼児・保育現場での運動指導（3年），スポーツクラブインストラクター（1年），保育者への運動発達に関する実演・講演演者（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が，乳幼児期の健康に関する専門的知識を身につけるため，幼児・保育現場での運動指導の経験（3年），スポーツインストラクター（1年）等や，保育者に対する健康に関する実技講演等の演者の経験（14年）を生かし，指導を行う。

科目名	子どもと環境演習			授業番号	MB309	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには，指導者はどのような準備をし，どのように子どもに接すればよいか，ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。 また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには，どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え，明らかにしていく。								
到達目標	・子どもが身近な環境に親しみ，自然とふれあい，様々な事象に興味・関心をもつためには，指導者はどのような準備，仕掛け，声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。 ・子どもが身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べることができる。 ・物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにするためには，どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容，内容の取扱いについて要点を考察する。	
第2回	子どもの身近な環境とは何か，自然とは何か，子どもが興味・関心を持つためには，どうすれば良いか考え，まとめる。	
第3回	子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか，発見を楽しむとはどういうことか，子どもはどのような場面で何を考えるか考え，まとめる。	
第4回	「(1)自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第5回	「(2)生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第6回	「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第7回	「(4)自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第8回	「(5)身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第9回	「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第10回	「(7)身近な物を大切にする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第11回	「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・言葉掛けをしたら良いか，イメージして，まとめる。	
第12回	「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第13回	「（10）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第14回	「（11）生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第15回	「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
授業計画　備考2	・授業の前半で資料を集め，思索を深め，子どもの具体的な活動をイメージする。 ・授業の後半は，ポイントを押さえたレポートを作成する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	全授業を通じて，学修内容の様子や気付きをまとめ，学生自身の学びが可視化されたものを中心に，学びの過程を評価する。
レポート	75	授業で学修した内容を深めることができたか，考え・発想・イメージの独自性，記述内容など，学びの成果を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	・学生の考え，発想，イメージを尊重する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
受講の心得	・「子どもと環境」について，深く根本的なことについて考え，イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べること。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。 ・授業で出た感想や疑問などをあらかじめ共有し，次回授業において議論するなど，各回の内容が有機的につながるよう工夫する。
授業外学修	「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し，見識を深めていくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領解説，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと人間関係演習			授業番号	MB310	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業は授業前に調べ学習を行い，授業は議論中心に行う。具体的には，幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また，そのための質的研究方法論についての理解も深める。								
到達目標	・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。 ・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。 ・先行研究のまとめ方，議論の方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」に関する研究とは何か　…　発達研究と実践研究について理解を深める	
第2回	「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る　…　仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する	
第3回	「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第4回	「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第5回	「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第6回	「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第7回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述…『エピソード記述入門』の紹介と議論	
第8回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究…『発達心理学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論	
第9回	幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方…ドキュメンテーションの紹介と議論	
第10回	質的研究方法論のTEMについて理解を深める…『TEMでわかる人生の径路』を基にした議論	
第11回	TEMで幼児の仲間関係をどのように捉えられるか… 保育実践研究のツールとしての複線径路・等至性モデルの可能性と課題」に関する議論	
第12回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA…「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論	
第13回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ…『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論	
第14回	エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか…『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論	
第15回	仲間関係に関するテーマを基にした議論　…　各受講者の関心のあるテーマを基に議論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	各回の授業で提示される課題について，自分の主張をいくつかの根拠にもとづいて明確に述べられているかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題レポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない。適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	使用しない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	教育心理学特論			授業番号	MC301	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。この授業では，学習者の認知過程についての知見をふまえた，新たな授業実践のあり方を解説する。								
到達目標	教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで，児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教授学習過程とは	
第2回	学習科学:思弁から科学へ	
第3回	熟達　ー熟達者と初心者の違いは何かー	
第4回	転移　ー学んだことを活用するためにー	
第5回	認知発達　ー子どもはいかに学ぶのかー	
第6回	神経科学　ー学習を支える脳のメカニズムー	
第7回	学習環境　ー学びの環境をデザインするー	
第8回	算数教育　ー意味を理解させるー	
第9回	理科教育　ーブラックボックスの内部を探るー	
第10回	読みの指導　ー大きな構図を見るー	
第11回	作文教育　ー知識の陳述から知識の変換へー	
第12回	教育評価　ー指導と評価を一体化するー	
第13回	教師の学習　ー教師の成長を支援するー	
第14回	情報教育　ー学習を支える情報テクノロジーー	
第15回	学習科学の現状	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業が変わる　認知心理学と教育実践が手を結ぶとき	松田文子・森　敏昭(監訳)	北大路書房	4-7628-2088-1	3200円
授業を変える　認知心理学のさらなる挑戦	森　敏昭・秋田喜代美(監訳)	北大路書房	978-4-7628-2275-9	3800円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども社会学特論			授業番号	MC302	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども社会学の位置づけ	
第2回	子ども社会学の研究対象と研究方法	
第3回	子どもの発達と子どもの「居場所」	
第4回	子どもの「居場所」と臨床教育社会学	
第5回	子どもの逸脱行動	
第6回	「いじめ」の定義の再検討	
第7回	学校と地域社会の連携	
第8回	母親の育児不安と父親の育児態度	
第9回	母親の育児不安と育児サークル	
第10回	現代日本の子ども観	
第11回	子どもの仲間集団	
第12回	子どもの放課後と学童保育	
第13回	子ども研究の方法 テクスト分析	
第14回	子ども研究の方法 フォーカス・グループ・インタビュー	
第15回	子ども研究の方法 SCAT	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども社会学の現在	住田正樹	九州大学出版会	978-4-7985-0135-2	3800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会 編『いま，子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤　理 編『消費社会と子どもの文化』学文社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	相談・援助特論			授業番号	ME301	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し，ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し，子どもを取り巻く環境に働きかける支援の理解を深める。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育・教育現場における相談援助について説明する。								
到達目標	1．相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。 2．子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。 3．事例研究にもとづいて，アセスメントの方法について理解できるようになる。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	相談援助の構造 子ども家庭支援のシステムを理解する。	
第2回	相談援助の理論・意義・機能 子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。	
第3回	相談援助における技術 子ども家庭支援の目的と機能を理解する。	
第4回	相談援助の対象・プロセス 保育の専門性を生かした支援プロセスを理解する。	
第5回	相談援助の方法と技術 信頼関係を築くための保護者や子どもへの対応方法を理解する。	
第6回	関係機関との連携 子どもや保護者が利用している社会資源との連携の必要性を理解する。	
第7回	保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の避守」 子どもの権利条約に基づく対人相談援助ついて理解する。	
第8回	保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」 保護者との情報共有の必要性を理解する。	
第9回	保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」 保育者に求められる資質を理解する。	
第10回	保育・教育相談援助の基本「受容，自己決定，秘密保持の避守」 バイステックの対人援助の7原則を理解する。	
第11回	保育・教育相談援助の実際1 保育所を利用する子どもへの家庭支援の方法を理解する。	
第12回	保育・教育相談援助の実際2 地域の子育て家庭への支援の方法を理解する。	
第13回	保育・教育相談援助の実際3 要保護の子どもと家庭への支援の方法を理解する。	
第14回	保育・教育相談援助の実際4 障がいのある子どもと保護者への支援の方法を理解する。	
第15回	保育・教育相談援助の実際5 虐待の予防に向けての保護者への支援の方法を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲のある受講態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	50	事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
無				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	発達障害児支援特論			授業番号	ME302	サブタイトル			
教員	原田 新								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で，二次障害の予防を見据えたインクルーシブ教育の環境，発達障害児への具体的な支援方法や関わり方，また家族支援の方法について身につけることを目指す。								
到達目標	各種の発達障害特性や支援方法について理解することで，発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に，子育て支援，保育，教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	障害とは：障害の社会モデル，障害者差別解消法，差別,合理的配慮等についての基本的な考え方を理解する。	
第2回	発達障害の理解(1)：発達障害におけるスペクトラムの考え方について理解する。	
第3回	発達障害の理解(2)：自閉スペクトラム症の基礎知識について理解する。	
第4回	発達障害の理解(3)：注意欠如・多動症，限局的学習症の基礎知識について理解する。	
第5回	発達障害と二次障害：二次障害をもたらす悪循環や，その予防・回復のために必要なことについて理解する。	
第6回	インクルーシブ教育(1)：インクルーシブ教育についての基礎知識について理解する。	
第7回	インクルーシブ教育(2)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第8回	インクルーシブ教育(3)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第9回	インクルーシブ教育(4)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第10回	発達障害児の見方と関わり方(1)：リフレーミングの基礎知識について理解する。	
第11回	発達障害児の見方と関わり方(2)：分かりやすい声かけや指示の仕方について理解する。	
第12回	発達障害児の家族支援(1)：ペアレント・プログラムの概要について理解する。	
第13回	発達障害児の家族支援(2)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の基礎的な書き方について理解する。	
第14回	発達障害児の家族支援(3)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の応用的な書き方について理解する。	
第15回	まとめ：これまでの授業内容について振り返ると共に，今後どのような形で活かせるかについて，話し合う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	授業内での討論や演習等への参加状況，授業外での取り組み状況，授業内で作成する成果物を総合的に評価する。
レポート	20	授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。小レポートについては，その後の授業で発表してもらうと共に，教員からコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に，授業中に行う討論や演習等に参加すること。
授業外学修	授業で配布する資料や，参考書等を参照しながら，予習，復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等教育機関における障害学生支援（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。

科目名	子どもの認知と学習特論			授業番号	ME303	サブタイトル			
教員	園田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人の行動は内的な認知過程に依存しており，その過程は感情や意識，経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と，それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。								
到達目標	子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習および認知について 知識獲得のメカニズムについて解説する。	
第2回	古典的条件づけ 「刺激」と「反応」の連合によって学習を説明する理論を解説する。	
第3回	道具的条件づけ 生起した行動への「報酬／罰」による生起頻度の変化について解説する。	
第4回	技能学習 楽器演奏，スポーツ技能，ドライブ技術など，動作や技術の習得について解説する。	
第5回	社会的学習 他人の経験や体験を見聞することによる学習のメカニズムについて解説する。	
第6回	問題解決と推理 問題解決過程について説明し，その中で重要な役割を果たす推理について解説する。	
第7回	概念過程と言語獲得 人間がどのように概念や言語を獲得し，用いるかという問題について解説する。	
第8回	記憶のしくみ 「記銘」-「保持」-「想起」から成る記憶のプロセスのうち，「記銘」について解説する。	
第9回	情報の検索と忘却 記憶過程を経て貯蔵された情報を「検索」するしくみについて解説する。	
第10回	知識と表象 人の中に保持されている知識について，どのように記憶されているのかを解説する。	
第11回	イメージと空間の情報処理 画像的記憶の特徴について，さらにその表象である視覚イメージについて解説する。	
第12回	認知の制御過程 人間の認知的活動を円滑に進めるための制御の過程について，注意のメカニズムを中心に紹介する。	
第13回	文章の理解と記憶 文章理解がどのようになされているのか，またその意味をどのように記憶しているのかについて解説する。	
第14回	意思決定 意思決定という判断を私たちはどのように行っているのか，先行研究に基づいて解説する。	
第15回	日常世界の記憶 日常世界での認知活動と実験室で観察される認知活動のかかわりについて解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。フィードバックは討議の中で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック学習心理学	山内光哉・春木　豊（編著）	サイエンス社	978-4-7819-0977-9	2550円
グラフィック認知心理学	森　敏昭・井上　毅・松井孝雄（共著）	サイエンス社	978-4-7819-0776-8	2400円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもとメディア特論			授業番号	MF301	サブタイトル			
教員	岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもを取り巻く情報メディア環境は，スマートフォン使用の低年齢化が進むことにより，大きく様変わりしつつある。 そのため，社会全体が，子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。 本授業では，前半部分でメディア教育の基礎理論およびその歴史と変遷について学修し，後半部分ではメディアと社会について，インターネットのソーシャルメディアを取り上げ，その文化的，社会的な効果や影響について分析し，適切な情報メディア環境を分析する。								
到達目標	授業で学んだメディア教育やソーシャルメディアの分析手法を習得し，その分析手法を使用し，各メディアが与える効果や影響について分析する知識を身に付ける。そして，ソーシャルメディアの今後の課題と在り方について学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	メディア教育とは 現代社会におけるメディア教育の重要性を強調し，メディアが個人と社会に及ぼす影響について理解する。また，メディアリテラシーの基本的な概念についても学修する。	
第2回	メディア教育の歴史Ⅰ（視聴覚教育とメディア教育） メディア教育の歴史について学修する。もともと社会教育と学校教育からそれぞれ2つに分かれて行われてきた「視聴覚教育」が教育現場でどのように行われてきたかを理解する。また現場の教員の指導の中心施設であった「視聴覚ライブラリー」の機能についても学修する。	
第3回	メディア教育の歴史Ⅱ CAIと呼ばれていた初期のコンピュータを活用した教育について，当時の映像や資料を参照しながら学習する。	
第4回	メディア教育の歴史Ⅲ（インターネットとメディア教育） インターネットの基本構造と，ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。オンラインコミュニティの形成とその文化的意味についても学修する。	
第5回	メディアリテラシー教育 メディアメッセージをどのように解釈し，批判的に考えるかを学ぶ。ニュース，広告，エンターテイメントを例に，メディアメッセージを自分で分析しながら学習する。	
第6回	ソーシャルメディアの基礎知識（文字や音声・映像による情報メディアの表現と技術） ソーシャルメディアによるコミュニケーションの基本的なしくみとその特性によって起こる課題について実例をもとに学修する。	
第7回	ソーシャルメディアと子どもの発達 ソーシャルメディアが子どもの言語発達化，注意力，社会性に与える肯定的および否定的影響について学修する。また，親と教育者の役割に焦点を当てて考える。	
第8回	情報の倫理と法律 オンラインでの行動規範，情報の正確性，著作権といった法的側面について学ぶ。デジタル時代における倫理的な課題と責任を学校現場の事例をもとに学修する。	
第9回	メディアとジェンダー メディアが形成するジェンダー観とステレオタイプの理解。メディアがどのようにジェンダー役割を再生産し，それに対抗する方法について議論する。	
第10回	メディアの社会的効果 メディアが公共の議論，政治意識，文化的価値に与える影響に焦点を当て，メディアが社会にどのように機能するかを探る。	
第11回	学校におけるソーシャルメディア活用の現状Ⅰ GIGAスクール構想に関する社会的背景や学校における情報通信技術に関する整備状況について理解するとともに，ICT支援員などの外部人材・外部機関と連携した取組の実態について理解する。	
第12回	学校におけるソーシャルメディア活用の現状Ⅱ 情報メディア，デジタル教材，デジタル教科書等を用いた指導事例にふれ，これらの効果的活用法について理解する。	
第13回	メディア教育と学修評価 学習履歴(スタディ・ログ)，デジタルポートフォリオを活用した学習評価の方法などメディア教育における学習評価について学修する。また，遠隔・オン ライン教育の導入の方法について学修し，その時の評価方法についても学ぶ。	
第14回	ソーシャルメディアの課題 現在学校現場で課題となっているソーシャルメディアの課題について調査・分析を行う。	
第15回	メディアプロジェクトの企画と実施 最終講義では，学生自身がメディアを利用したプロジェクトを企画，実施する機会を提供。これにより，コースを通じて学んだ理論とスキルを実践的に適用し，理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
レポート	70	各回の授業で提示される課題について，理解の程度，自分の考えを具体的に述べているかなどの観点で評価する。なお，レポート等の提出物へのフィードバックについては，コメントを記載して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	新聞・TV等で報道されるメディア情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。
授業外学修	1 復習すること 2 授業で紹介された参考文献を読む。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中でその都度紹介するが「スマホ能」アンデシュ・ハンセン(新潮新書)は必ず読んでほしい。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー　3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	生涯学習センター(県視聴覚ライブラリー)で各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていたメディア教育研修の内容や情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

科目名	地域教育社会学特論			授業番号	MF302	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての地域教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの社会化とは何か	
第2回	現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観	
第3回	現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観	
第4回	現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観	
第5回	子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴	
第6回	子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴	
第7回	子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴	
第8回	現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態	
第9回	現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育	
第10回	現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動	
第11回	現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット，ケータイ	
第12回	地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン	
第13回	地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成	
第14回	地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)	
第15回	地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもへの現代的視点	住田正樹・多賀太	北樹出版	4-7793-0076-2	2800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	地域教育福祉特論			授業番号	MF303	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで，子どもの教育環境・子ども家庭福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際，「地域におけるネットワーク形成」に着目し，コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また，院生自身が事例を読み解き，自らプレゼンテーションをする時間を設ける。								
到達目標	・現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して，地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。 ・子ども，家族に関する理解を前提に，子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析，考察することができるようになる。 ・なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもをめぐる現状と課題 子どもをとりまく環境を理解する。	
第2回	「子どもの権利条約」からみた教育・福祉 子どもの権利に関する条約の内容を理解する。	
第3回	地域ネットワークとは 地域の社会機関同士の連携協働の必要性を理解する。	
第4回	子育ての現状と子育てネットワーク 子育て支援関連の社会資源を理解する。	
第5回	保育・幼児教育施設における子育て支援 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育て支援の内容を理解する。	
第6回	児童館で展開される子育てネットワーク 児童館での子育て支援を理解する。	
第7回	学校現場を中心にみたネットワーク1 スクールソーシャルワークを理解する。	
第8回	学校現場を中心にみたネットワーク2 スクールソーシャルワーカーの役割を理解する。	
第9回	市町村における子どもの専門機関のネットワーク 行政における子育て支援対策を理解する。	
第10回	子どもの貧困対策に対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第11回	子どもの貧困対策に対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第12回	多文化の子どもに対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第13回	多文化の子どもに対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第14回	子どもをめぐるネットワークとは 子ども支援のために構築されているネットワークを理解する。	
第15回	地域教育・地域福祉の今後の展望と課題 子どもの教育保障するためにどのような暮らしの支援が必要かを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
小テスト	50	出題に対して適切な分析力，表現力，また，参考文献・資料などの活用力などについて評価する。
その他	30	プレゼンテーションについては，「他者によく分かる授業」を観点として評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に提示した資料をよく読んでくること。毎回の授業において，他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し，他学生に提示できるように努力すること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
無				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと放課後特論			授業番号	MF304	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）について、日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』に所収の論考を批判的に分析することを通じて学ぶ。								
到達目標	・現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）の現状と、その研究動向を理解する。 ・放課後における子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの放課後対策の現状 現代日本における子どもの放課後対策について全体像を理解する。	
第2回	子どもの放課後対策の課題 現代日本における子どもの放課後対策が抱えている課題を理解する。	
第3回	放課後児童健全育成事業（学童保育）政策の概要 現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）制度とその現状を理解する。	
第4回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの生活保障 テキスト「第一部第1章　生活保障としての学童保育」を批判的に検討する。	
第5回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と地域づくり テキスト「第一部第3章『大きな家族』としての学童保育から地域づくりへ」を批判的に検討する。	
第6回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの権利保障 テキスト「第一部第4章　子どもの権利と学童保育の子ども観・子育て観」を批判的に検討する。	
第7回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と学校教育 テキスト「第一部第2章　学童保育と学校教育の現在と未来」を批判的に検討する。	
第8回	学童保育実践の特質と構造 テキスト「第二部第1章　学童保育実践の特質と構造」を批判的に検討する。	
第9回	学童保育指導員・支援員の職務と専門性 テキスト「第二部第2章　学童保育指導員・支援員の職務と専門性」を批判的に検討する。	
第10回	学童保育指導員の同僚性 テキスト「第二部第5章　実践者たちの同僚性と組織的な専門性向上」を批判的に検討する。	
第11回	学童保育実践と子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第1章　今日の子どもたちの発達保障と学童保育実践」を批判的に検討する。	
第12回	学童保育実践とインクルーシブ子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第2章『特別な教育的ニーズ』のある子どもとインクルーシブ学童保育」を批判的に検討する。	
第13回	学童保育実践と家族支援 テキスト「第三部第3章　貧困・児童虐待問題と学童保育における家族支援」を批判的に検討する。	
第14回	学童保育研究の課題と展望 テキスト「第一部第5章　日本の学童保育史研究の課題と展望」を批判的に検討する。	
第15回	子どもの放課後対策の未来 子どもの放課後に対する総合的な対策の方向性を、海外の取組を踏まえて考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	本科目の学習を理解した上で，子どもの放課後対策及び学童保育に関する考えを論述すること
小テスト		
定期試験		
授業での発表	50	テキストの内容理解及び批判的検討について発表する内容の妥当性

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って，積極的に討論に参画すること。
授業外学修	1）テキスト及び配付資料を熟読すること。 2）学校外の子どもを対象とした様々な事業に参加したり，そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学童保育研究の課題と展望	日本学童保育学会	明誠出版	4909942165	3080

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針解説書」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども学特別研究			授業番号	MH401	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、中　典子、中田　周作、西田　寛子、伊藤　智里、園田　祥子								
単位数	8単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	入学後，院生は研究指導教員と話し合い，ディプロマポリシーにふさわしい研究テーマを設定し，修士論文としてまとめる。目安として，1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め，具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集，解析し，修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある学生では，自ら体験した事例や，現場で集めたデータを基に研究を進めることもできる。2年次後半で研究の仕上げを行い，修士論文を完成させる。								
到達目標	子ども学の本質・内容・方法に関する専門的知識に基づいて， ・子ども学の専門的な知識や研究手技を理解する。 ・事象を分析し，問題点を見出し問題解決を行う。 ・論理的で普遍性のある文章およびプレゼンテーションにより表現する。 ・科学者としての研究倫理を踏まえて研究を進める。 以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。修士論文審査の評価基準は別途配付する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。								
授業計画 自由記載	佐々木弘記：教育方法学，教育工学の手法を用いて，教授－学習過程やメディアの活用に関する理論的・実証的研究の指導を行う。 中　典子：事例研究の手法を用いて学校をベースに展開するソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。 西田寛子：マネジメントの手法を用いて，英語科や外国語活動に関する理論的・実証的研究の指導を行う。 伊藤智里：幼児教育の歴史，現在の保育・幼児教育に関する問題等に関する研究指導を行う。 園田祥子：表示メディアと読みの関係，音読の効果，頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度によって評価する。
その他	90	執筆された論文を学位審査委員会で審査する。

評価の方法：自由記載	論文は，受講中の討論や中間発表での議論が反映されていることと，高度専門職業人や研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演を審査の対象とすることができる。
受講の心得	教育や保育の実践の改善に資するテーマを探究すること。先行研究のレビューを行い，教育や保育の実践上の問題点を明確にし，研究課題の新規性を説明できるようにしておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり8時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭(15年)，県教育センター(９年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭･指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)での勤務経験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。（佐々木弘記） 英語科教員･指導主事としての実務経験（38年）を生かし，教育現場の実態を踏まえて，その課題を解決するための実践的な指導を行う。（西田寛子）